

科目名 Course Name	開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助実習 I Practicum in Fieldwork of social welfare I	1年	集中（後期）	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格	履修上の制限
1単位	実験実習	選択 (社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ（左記2科目の単位取得を経て、相談援助実習Ⅰの実習を許可する）、他フィールド履修不可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目			
社会福祉士受験資格指定科目			
同時に履修しておくことが望まれる科目			
社会福祉士受験資格指定科目			
担当者に関する情報			
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
中島佳子 大熊信成 山田昇	栄養棟3階、福祉棟2階、講義棟2階	各教員から説明します	授業中に指示します
授業の概要			
社会福祉士の国家試験受験資格を目標に現場実習を通して、社会福祉専門職（相談援助）として仕事をする上で必要な知識や技術など、これまで学んだことを活用し、実際の援助現場で確認する。 「相談援助実習Ⅰ」では職場の構造（仕組み）と機能（働き）を全体的に理解することをめざし、職場実習を行う。			
授業の目標			
①学内で学んだ知識や技術を実際の援助現場で確認し、理論と実践を結びつけることができるようにする。 ②社会福祉専門職としての自己覚知、利用者理解を深め、施設・機関の機能やニーズについて分析することができるようにする。 ③社会人としてのマナーを守り、責任ある行動をすることができるようにする。 ④多職種協働を学び、相談援助の内容や相談援助職の役割について明確に示すことができるようにする。			
授業の方法			
福祉現場における実習			
学習の成果（学習成果）			
①机上で学んだ社会福祉や相談援助に関する知識や技術が実際の援助現場で活かされていることを確認できる。 ②社会福祉専門職としての自己理解と対象理解について具体的にかつ実践的に分析できる。 ③実習機関・施設における仕事のルールを順守し、業務を模倣できる。 ④利用者とのコミュニケーション方法を学び、例証できる。 ⑤実習機関・施設で働く専門職の、多職種協働のありようを確認できる。			
授業のスケジュールと内容			
配属された各施設・機関において6日間（48時間以上）の実習を行う。			
・配属先は、実習生の希望や居住地、実習計画を参考に実習指導教員が配属を行う。			
・実習1か月前には実習施設・機関へ事前訪問を行う。			
・実習中は実習指導者の指示に従い、スーパービジョンを受ける。			
・記録を毎日作成し、期限までに実習指導者へ提出する。（最終日には、全記録を実習指導者へ提出する）			
・実習終了後は、6日間の学びを「評価とまとめ」として作成し、実習指導者へ提出する。			
・実習中、実習指導教員による巡回指導を1回行う。			

【実習予定施設・種別】社会福祉協議会・介護老人福祉施設、デイサービス、障害者支援施設等。

成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他	100%	出勤状況、実習態度、実習巡回指導、実習指導者の評価、記録などにより総合的に判断する
教科書と参考図書		
教科書：ミネルヴァ社会福祉士養成テキストブック「相談援助実習」川廷宗之他／ミネルヴァ書房（相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱと同様）		
履修上の留意点・ルール		
実習生としてのマナーやルールを順守し、実習に適した態度で実習に臨むこと。		